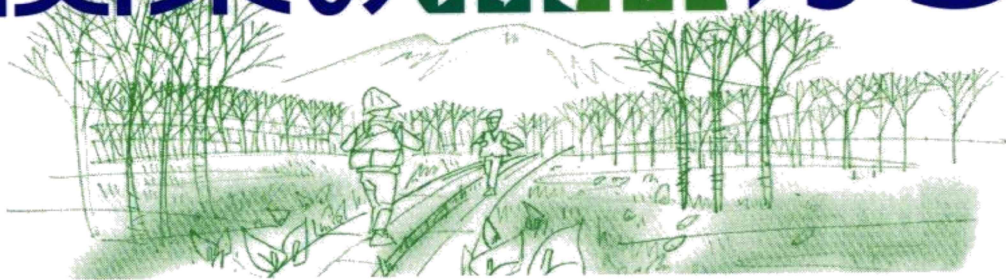


関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



えぶりさしだけ
「**杵差岳（ハクサンイゲと紅葉）**」 （新潟県関川村）

（撮影：関東森林管理局 下越森林管理署村上支署）

- ◎ 「伐って、使って、植える」林業を目指して
～システム販売と市場化テスト等の取組～ 資源活用課・・・2
- ◎ 第55回関東・中部地区治山林道研究発表会への参加 治山課・・・4
- ◎ 林業試験地から 森林技術・支援センター・・・6
- ◎ 森づくり最前線
利根沼田森林管理署 沼田森林事務所 森林官 田畑真澄・・・9

「伐って、使って、植える」林業を目指して
 システム販売と市場化テスト等の取組
 資源活用課

【木材の安定供給への貢献】

「国有林材の安定供給システム販売の推進」

現在、我が国の人工林資源は、本格的な利用期を迎えています。

この充実した人工林資源を持続的に循環利用し、林業・木材産業の成長産業化を図る取組の一つとして、関東森林管理局では、国産材の安定供給体制の構築に向け、新たな木材需要の創出等に取り組み製材工場等に国有林材（原木）を安定的に供給する、「国有林材の安定供給システム販売」（以下「システム販売」という。）を実施しています。

システム販売は、関東森林管理局と製材工場等において国有林材の安定供給に関する協定を締結し、協定者に対し、国有林材を供給するもので、今年度の協定状況については、第1次募集の57販売物件に対して119件、第2次募集の

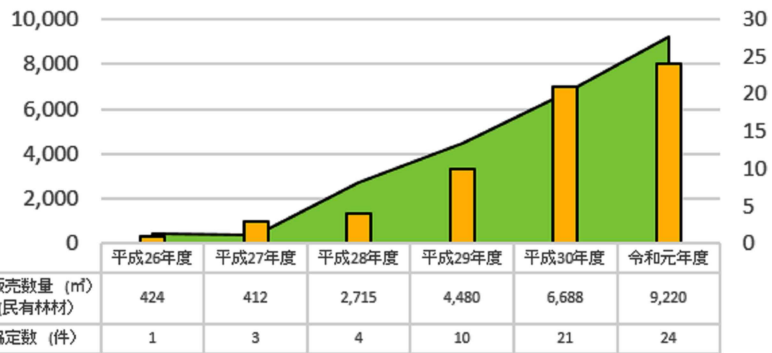


システム販売におけるトラックへの材の積み込み状況

8販売物件に対して13件の申請があり、合計65販売物件の協定の締結を行いました。

「民有林と連携したシステム販売の取組」

システム販売は、国有林材を対象とした販売のほか、民有林所有者等と連携して民有林材と国有林材を一括して販売する「民有林と連携したシステム販売」（以下



民国連携システム販売における民有林材の販売数量及び協定数の推移

「民国連携システム販売」という。）も行っています。

民有林所有者からは、国有林と連携することにより「販売先が確保され安定的・計画的に販売できた」など好評の声が寄せられ、協定件数及び民有林材の出材材積は年々増加し、今年度の実績は、24協定、9,220m³と増加傾向で推移しており、今後においても、

民国連携システム販売の推進を図っていくこととしています。

【市場化テスト（複数年契約）の導入】

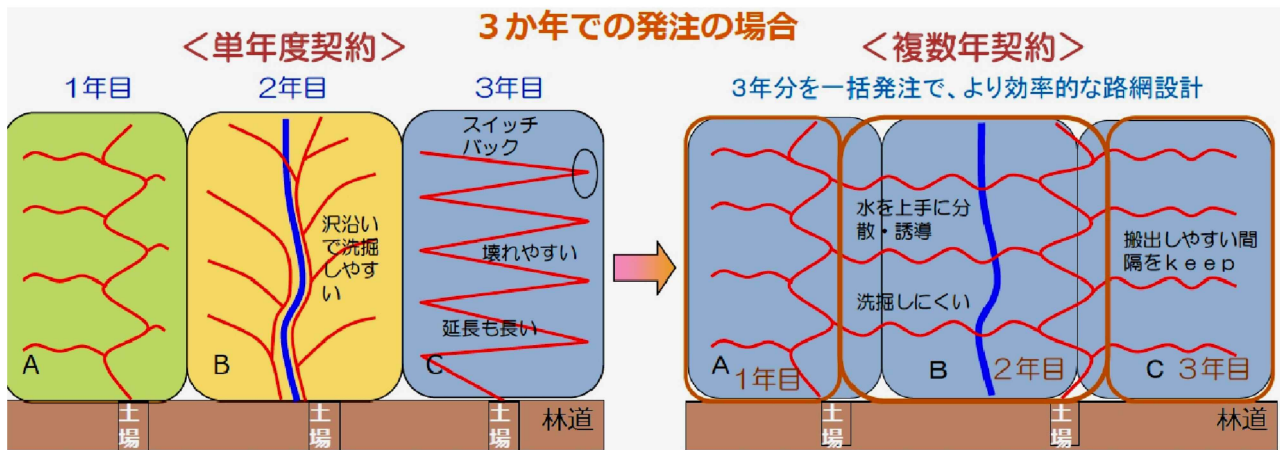
林野庁では、間伐事業の一部において、公共サービス改革法に基づく民間競争入札（市場化テスト）を導入し、一定のまとまりのある規模を国庫債務負担行為を活用した複数年契約（2カ年又は3カ年）で実施しています。

関東森林管理局においても、平成23年から導入し、これまで管内8署で実施しています。

民間競争入札の実施状況一覧

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
棚倉	←→										
福島	←→										
塩那		←→									
吾妻			←→								
茨城				←→							
群馬					←→						
天竜						←→					
静岡								←→			

※ ←----→ は、令和元年度中に契約予定。



事業イメージ図

【国有林材供給調整検討委員会の開催】
 国有林野事業では、地域の木材需要が大きく変動した際に、木材の供給調整機能を発揮することも重要な役割としています。そのため、関東森林管理局では、民有林や木材加工・流通の関係者、有識



市場化テスト事業地における列状間伐の実施状況(塩那署)

本事業は、一定のまとまりのある区域を一括発注することから、受注者側にとっては、単年度事業よりも効率的な路網設計が可能になり、間伐の生産性が向上するとともに、複数年にわたる事業量を確保することで、経営や雇用が安定する等のメリットが生まれます。今後も引き続き本事業を活用し、民間事業者の創意工夫を凝らした提案を取り入れ、効率的で低コストな間伐等を実施していきます。

【ICT機器の活用】
 ICT機器の活用による業務の効率化へ向け、丸太検知アプリ

者等を委員とした「関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を平成25年度に設置しました。この委員会では、地域の木材価格や需要動向を把握・分析し、専門的な観点から国有林材の供給調整の必要性、実施方法等を検討しており、毎年度四半期毎に開催しています。



両機器とも今年度における試行・検証結果を踏まえ、令和2年度以降段階的に適用拡大を図り、業務の効率化を進めていくこととしています。

(木口調査アプリ)の試行・検証を開始しています。このアプリは、機械学習AI機能を搭載し、山積みされた丸太の木口を写真撮影することにより、自動で太さの本数及び材積等を調査し、丸太の数量を測定できるものです。
 また、森林内での立木調査を省力化するアプリについても試行・検証していくこととしています。このアプリは、今まで調査野帳に手書きで記入していた立木のデータをタブレット端末に直接入力し、パソコンにデータを移して自動計算・調査野帳の印刷等を行うものです。

第55回関東・中部地区治山林道研究発表会への参加

治山課

関東・中部地区治山林道研究発表

会は、関東・中部地区の1都15県並びに関東・中部森林管理局の治山林道事業に携わる技術者が、日頃の技術研究等の成果を発表するとともに、最新の情報等の交換を行うことにより、より質の高い治山林道事業の推進に寄与することを目的とした発表会です。昭和39年から関東・中部地区の都県が持ち回りで開催しており、今年度は、8月23日に愛知県名古屋市の愛知県産業労働センター（ウイंकあいち）で開催されました。



発表中の様子

発表会では、治山8課題、林道5課題の合計13課題が発表されました。

関東森林管理局からは、治山部門で磐城森林管理署原町治山事業所の長野祐介治山技術官と国土防災株式会社技術本部第一技術センターの小山浩之氏が「東日本大震災における海岸防災林の復旧状況」を発表しました。

磐城森林管理署では、平成23年3月11日の東日本大震災により壊滅的被害を受けた福島県相馬市大洲国有林の海岸防災林造成工事を実施しています。

震災後、復旧計画を策定、実行するにあたって、防災機能の確保と生物多様性保全との調整を図る目的で福島県主催による海岸防災林希少種検討会議が開催されました。

この会議における検討の結果、希少野生生物の保全に配慮したゾーンを設置する



発表会場

こととなり、希少植物の生育が確認された箇所を保全区域として設定し、保全区域周辺も含めた環境保全に配慮した工事を行っています。

今回の発表では、保全区域の施工は有効であり、塩性湿地等の環境は維持されている一方で、保全区域、植栽区域双方で環境の変化が認められるため、今後も希少種保全、防災林の保育管理の観点から、状況を注視していく必要があることについて報告しました。

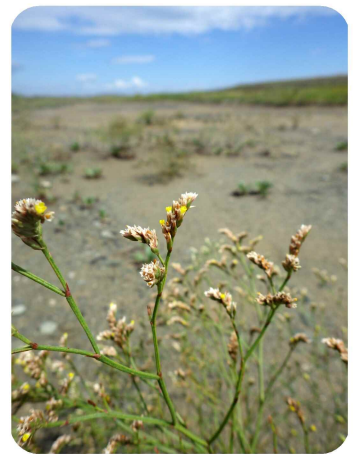
今後も健全な海岸防災林を目指す事業を進めるとともに、生物多様性への配慮とバランスが図られるよう、必要な措置を講じていきたいと考えています。



松川浦沿岸の保全区域（破線内）



静砂内で順調に生長する植栽木



保全区域内に生育する希少植物（左：ハマツナ 右：ハマザシ）

社会体験 チャレンジ事業

埼玉森林管理事務所

埼玉県秩父市では、地域の中で様々な社会体験活動を通じて、多くの人々とふれあい、学校では得られない体験を積むことで社会性や自主性を養うことを目的に、市内の中学生に各企業の職場を体験する「秩父市中学校社会体験チャレンジ事業」を実施しています。

埼玉森林管理事務所でも毎年市内の中学生を受け入れていますが、今年も7月9日から11日までの3日間、「尾田蒔中学校」の生徒3名を受け入れました。

職場体験では、国有林野事業の概要や森林の働きについて説明し、その後、コンパス測量及び製図、製品生産事業地の見学、収穫調査、間伐作業（伐倒）等、当所で実施している事業を実際に体験することにより、国有林及び林業につい

て理解を深めてもらいました。

後日、生徒から「森林が地球温暖化を防いだり災害を最小限に止めてくれる大切な存在だと知った。いろいろ体験して難しいことや楽しいことなどを感じました。」とお礼の手紙が届きました。

11月にも「秩父第一中学校」の生徒を受け入れる予定となっております。



所長から森林の働きの説明



収穫調査の実習



コンパス測量の実習

今月の表紙

「えぶりさだけ杓差岳」
（新潟県関川村）

新潟県関川村にある杓差岳（えぶりさだけ）標高1636.4mは、飯豊連峰に連なり、付近は磐梯朝日国立公園、飯豊山周辺森林生態系保護地域に指定されています。

春には白い花をつけるハクサンイチゲが一面に広がり、秋には美しい紅葉を楽しむことができます。

名前の由来は、「柄振（えぶり）」を用する農具である「柄振（えぶり）」を担いだ農夫の姿をした雪形が、田植の頃に現れるためといわれています。



林業試験地から
森林技術・支援センター

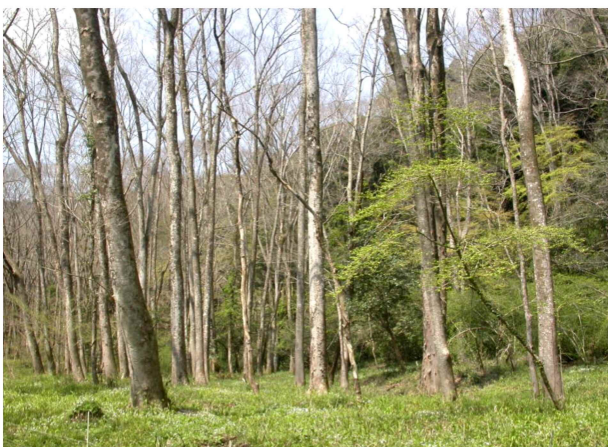
今回は、茨城県東茨城郡城里町の県立自然公園内の御前山国有林（写真1…御前山（標高156m）と那珂川大橋）山麓の試験地の紹介です。



（写真1）御前山と那珂川大橋

が源となる那珂川が流れ、地元では、清流の景観が京都の嵐山に似ていることから「関東の嵐山」と呼ばれており風光明媚な地に二つの試験地があります。

御前山の名前の由来は、皇族方々が居住していた逸話や藤原一族が山城を築城した説もあるもの、はきりしていません。また、江戸時代には、水戸徳川家によって伐採が禁じられていた歴史があったことから、常緑樹と落葉樹の入り混じった豊かな自然が残ったと言ひ伝えられています。この御前山



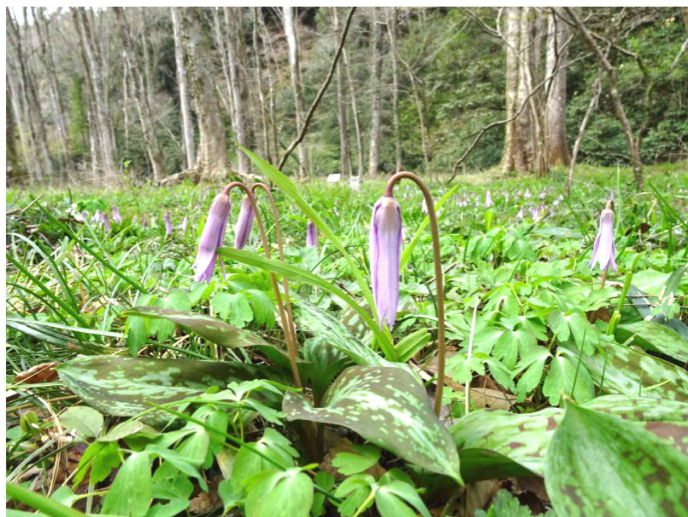
（写真2）ケヤキ133年生の展示林

の山麓に、ケヤキ133年生の展示林（30ろ林小班…写真2）があり、赤沢林道沿線から徒歩30秒で現地に着着できる優れたロケーションです。

当センターでは、ケヤキの林内で毎年7月を目処に、木本や草本植生の調査を定期的に実施しているほか、従前には、カタクリ・ニンソウの群生地であったものの、猪の食害や人的被害により衰退状況となった箇所について、平成24年度から獣害対策の電気柵を設置し植生保護と再生を目的として調査しています。（写真3…カタクリの再生）

また、山腹の「関東ふれあいの道」ハイキングコースには、樹齢165年生のスギ試験地（写真4…胸高直径測定中）やカシ類の常緑樹群落を見ることが出来ます。

当地までのアクセスは、国道123号線の「道の駅かつら」を目印にもらうとわかりやすいです。



（写真3）カタクリの再生



（写真4）樹齢165年生 スギ試験地（胸高測定）



(写真5) 群落保護林ヤマトアオダモ試験地

次は広葉樹の人工林試験地で、茨城県常陸大宮市の鷲子山（トリノコヤマ）国有林45は林小班的ヤマトアオダモの試験地です。（写真5…群落保護林）

ヤマトアオダモ（写真6…ヤマトアオダモの樹幹）は、今でこそ野球のバットの材料として貴重な樹種となりましたが、明治44年に人工植栽（造林台帳確認）された時の利用目的は不明です。現在108年生の林となっており、国内



(写真6) ヤマトアオダモの樹幹

この試験地までのアクセスは、茨城県常陸大宮市と栃木県那須郡那珂川町の県境国道に隣接していることから、国道293号線の鳥居土から鷲子山神社を目標に、手

唯一と思われる貴重な森林となっています。当センターでは、平成16年度から、成長のモニタリングを実施するとともに天然更新の可能性について、プロットを設定し更新状況調査も実施しています。

ヤマトアオダモの人工林特性等については、2009年森林立地学会誌に「ヤマトアオダモ人工林の林分構造と成長」として紹介しています。

前200mに保護林の標識があるところに駐車すれば点在するアオダモを見ることが可能となっています。現地案内を希望される場合には、当センターに一報いただければ幸いです。

きのこ特集

【巨大キノコ発生その名は】
ニオウシメジ（キシメジ科 キシメジ属）（食用）

ニオウシメジは、南方系のきのこで熱帯地方に多く発生し、日本では沖縄県などの九州地方で良く発生が確認されますが、それ以外の地方では、稀に発生が確認される程度のきのこです。

現在、群馬県より北では発生が確認されておらず、群馬県が世界の北限になっています。

カサは15cmから20cm位で表面は類白色から白色で平らに開き何本かが固まって株状になります。

柄は、カサと同色で20cmから40cm位です。

ヒダは白色で柄に窪んでから接する湾生です。

重さは一株20kg位で、大きいものは100kgを超えることもあります。

最近日本で発生するニオウシメジは、「一種類ではなく何種類かに分類する必要があります。」と言われていています。また、人工栽培も可能です。



ニオウシメジ成菌

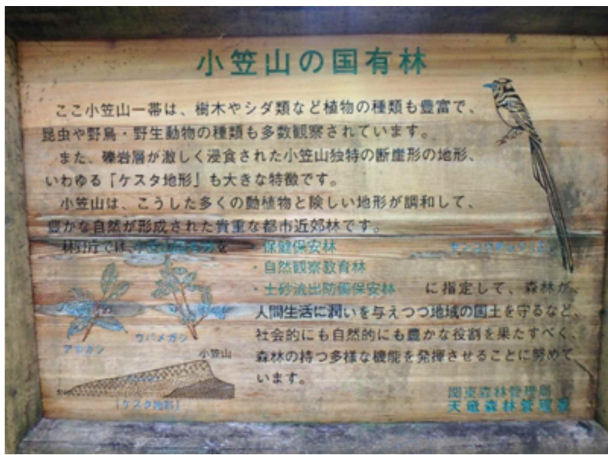


ニオウシメジ幼菌

山の日記念イベント
「小笠山の自然観察会」
天竜署 掛川森林事務所 石倉悠裕

8月11日(日)天竜署管内の小笠山自然観察教育林(掛川市)において、小笠山を愛する協議会主催の自然観察会が開催されました。

この活動は、小笠山の自然に親しみ自然を大切にすることを育むことを目的に、平成28年から毎年、山の日に行われているものです。当日は炎天下にもかかわらず、



小笠山は標高264m ケスタ地形が特徴



熱心に特徴を観察する参加者

初心者からベテランまで32名が参加し、里山を歩く会・日本野鳥の会・巨樹の会・当署職員などの解説を聞きながら林内を散策しました。皆さん積極的に質問をしたり、メモをとったりと興味津々の様子で、熱心に耳を傾けていました。

また、参加者の中には講師以上に鳥や虫などに詳しい方がおり、参加者同士で教え合うよう

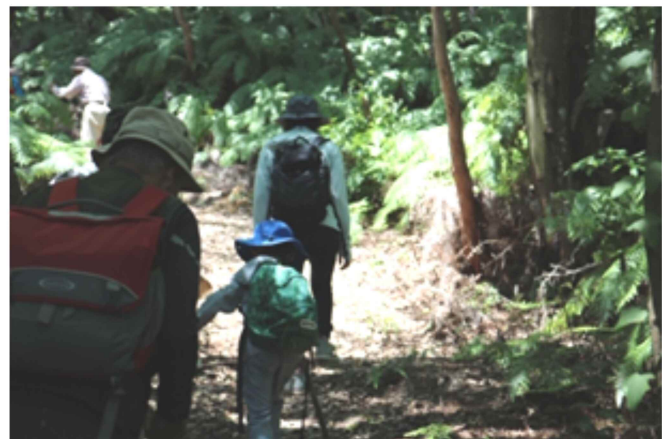


「あの木はなんだ？」みんなで相談中

な形で自然観察会が進んでいたのも印象的でした。

小さなお子さんも参加しており、お気に入りの木の棒を拾ったり、空っぽになった蜂の巣の臭いを嗅いだりと五感をフルに活用して自然を楽しんでいるようでした。

参加者からは「勉強になった、参加してよかった」「いろいろな植物があつて楽しかった」といった意見があり、まさに山の日の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」1日となりました。



林内は少し涼しい

今後もこのような活動を通じて、多くの人が森林に触れ合う機会を作ることの必要性を感じました。

天竜署では、引き続きこのような地域からの要望や農林大学校等からの講師依頼等に積極的に努めて参ります。



森づくり最前線

利根沼田森林管理署 沼田森林事務所 森林官 田畑 真澄



玉原高原のブナ林

私の勤務する沼田森林事務所は群馬県北部の沼田市にあり、日本百名山の赤城山や武尊山、ぐんま百名山の鹿俣山や子持山などの山々に囲まれています。また、市域を南北に貫流する利根川と支流片品川においては、日本一美しいと評される高低差70mの河岸段丘も見られ、自然に囲まれた緑豊かな場所です。



伐採後の検査の様子（適正に伐採された区域の周囲の木に印をつけます）

真田氏が城主として有名な沼田城跡地もあります。昭和村は村の面積の40%が畑で農業が盛んです。こんにゃく芋は全国で一位の生産量です。

この自然豊かな2市村の国有林内で、森林調査や境界確認などの各種調査や管理業務を行っています。

また、現場ではクマやニホンジカ等の獣による樹木の樹皮を剥いだり植物の葉を食べたりするなどの被害が深刻です。非常勤職員と樹木ヘテーパー（生分解性）を巻き、獣害対策を実施してきていますが被害は後を絶ちません。観光地となっている玉原湿原にお

春のミズバシショウウから始まり、コバイケイソウやタムラソウなど季節によりさまざまに植生を観察することができま。これらの希少な植物の被害が深刻であったことから平成30年度より沼田市や地元自然保護団体の方々と協力しニホンジカの食害を防ぐため、湿原へネットを張り侵入対策を実施しました。対策により

いても、ミズバシショウウ等の植物がニホンジカの食害により減少の脅威となっていました。玉原湿原は、国有林内に位置しブナ林に囲まれた4.3haの湿原で、尾瀬にたとえられ「小尾瀬」とも呼ばれています。



シカ防除ネットの設置

ミズバシショウウ群落等の回復が見られたことから、今年度も継続して対策を実施していきます。

また、獣害対策の一つとして昭和村の国有林内では、6月と10月の年2回、職員実行で有害鳥獣捕獲（くくり罠）も実施しています。

森林の育成だけでなく獣害の対応など、どのような森づくりをしていくのか森林官として悩む毎日ではありますが、関係機関や地元団体等と連携を密にしながらよりよい森づくりを行っていきたくと考えています。



カケス（懸巢）

約33cm. 他鳥の鳴きおが上り賢い鳥。たまにチェーンソーなどの機械音もおびて驚かす。

